

2007 年 8 月 29 日

販売期限切れ商品等を飼料・堆肥として活用 アグリガイアシステムと協働で食の循環型ネットワークを構築

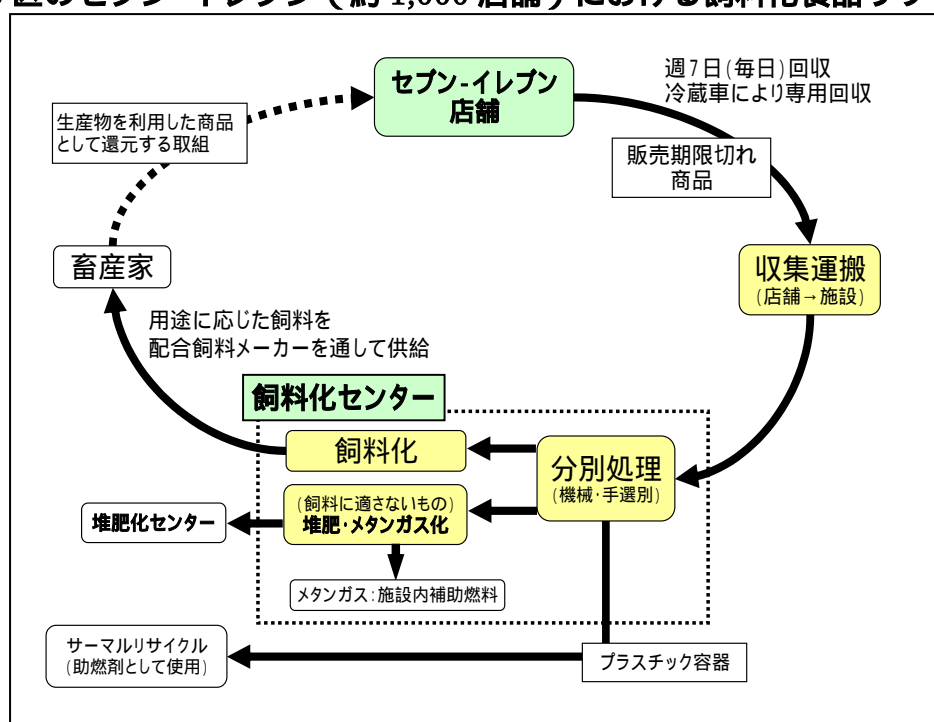
～ 9 / 1 (土) セブン-イレブン食品残渣の飼料化が本格スタート ～

株式会社セブン&アイ・ホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役会長 最高経営責任者＜CEO＞：鈴木 敏文、以下 セブン&アイ HLDGS.）は、循環型食品リサイクルに取り組んでいる株式会社アグリガイアシステム（本社：千葉県八街市、代表取締役：谷古宇 浩之、以下 アグリガイアシステム）と協働で、東京 23 区内（約 1,000 店）のセブン-イレブン店舗で排出される販売期限切れ商品を循環型資源として活用しています。2003 年から実施の堆肥化に続き、2007 年 9 月 1 日からは飼料としての再資源化を進めてまいります。これはセブン-イレブン独自の廃棄物回収システム「エコ物流システム」（1994 年開始）をベースに、弁当や惣菜等、販売期限切れ商品を 1 日 1 回店舗から冷蔵回収を行い、100%リサイクルするという取り組みです。

これまでもセブン&アイ HLDGS.では、各自治体における廃棄物の適正処理とリサイクルを行い、食の循環型ネットワークを推進する中で、グループ内の食品残渣から生まれた堆肥を利用して育った「ひだまりスイカ」や「ほうれん草のごまあえ」等をイトーヨーカドーやセブン-イレブンで販売してまいりました。

セブン&アイ HLDGS.では、グループ各社から排出されるゴミ等の廃棄物を有効資源として活用していくと共に、循環型社会を目指し、食品リサイクルについて今後も積極的に取り組んでまいります。

■東京 23 区のセブン-イレブン（約 1,000 店舗）における飼料化食品リサイクル



飼料化食品リサイクル フロー図

■セブン-イレブン 飼料化食品リサイクルの概要

- 1．開始日 ：2007 年 9 月 1 日（土）
- 2．対象店舗 ：東京 23 区のセブン-イレブン（約 1,000 店舗）
- 3．リサイクル場所：アグリガイアシステムの循環型飼料化センター（千葉県佐倉市）

- 4．回収の流れ ： 販売期限切れ商品を売場より撤去

↓

専用回収 BOX に入れ、バックルームにて保管
（店舗において、容器と中身の分別は不要）

↓

1 日 1 回、回収業者が冷蔵車（5 管理）にて回収

↓

回収された販売期限切れ商品が循環型飼料化センターへ到着

↓

人の手による「手分別」＋「機械分別」

↓

5 種類に分別した各資源ごとに最適な飼料製造工程へ

↓

3 種類の飼料へ ・高脂肪高タンパク配合飼料原料
 ・低脂肪低タンパク配合飼料原料
 ・リキッド（液状）飼料



飼料化センター内観

- 5．飼料の利用 ： セブン-イレブンの弁当や惣菜等の食材として利用する豚肉や鶏肉の飼料として利用

- 6．食品リサイクル実施状況と今後の予定（堆肥化および飼料化）

	実施店舗数	実施率
07 年 7 月末	約 1,600 店	約 14.0%
08 年 2 月末予定	約 2,350 店	約 20.0%

堆肥化・飼料化への食品リサイクル分（除：油のリサイクル）

■セブン-イレブンの食品リサイクル・飼料化センターの特徴

- **持続可能な循環型リサイクルシステムを構築**
 - 食品残渣の特徴に合った利用方法（堆肥化・飼料化）で 100%リサイクルを実施
 - 機械での分別が不可能なものは、手作業にて分別を実施
- **店舗での作業は最小限に**
 - 販売期限切れ商品の容器と中身の分別をすることなく、専用の回収箱に入れるのみ
- **高品質で信頼性の高い飼料を製造**
 - セブン-イレブンの食品残渣が原料
 - 冷蔵車による運搬
 - クリンリネスが徹底された工場での分別
- **資源をムダにしない効果的なリサイクル**
 - 飼料化に向いていないものは堆肥化に

ご参考

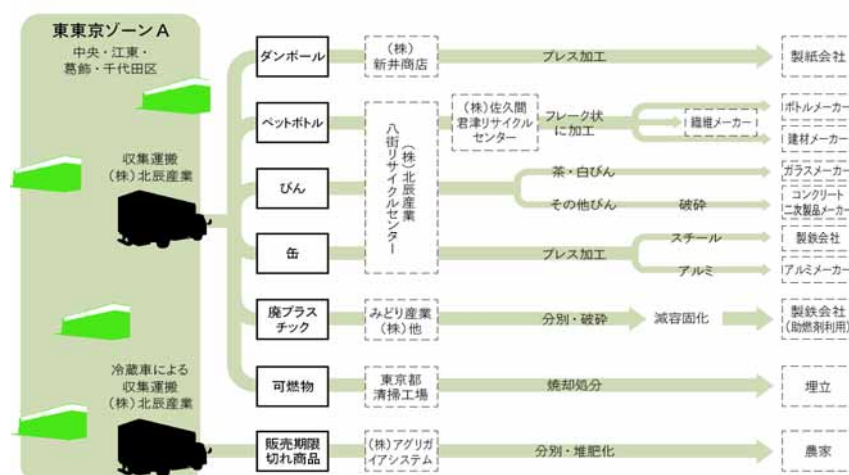
<セブン-イレブン 食品リサイクルの経緯>

年	取 り 組 み 内 容
1997	新潟県長岡市にて食品残渣を配合した肥育実験
1998	茨城県竜ヶ崎市にて調理パン・惣菜工場内へ発酵乾燥機を導入
2000	九州地区における食品リサイクル事業を検討開始
2002	「九州食品工場リサイクル事業協同組合」設立（農林水産省・環境省認可）
2003	千葉県八街市にリサイクルセンター竣工（株式会社アグリガイアシステム） 東京 23 区の約 900 店舗を（当時）対象としたエコ物流（一括回収・適正処理システム）による堆肥化リサイクルを開始
2004	九州食品工場リサイクル事業協同組合が飼料化施設を稼動
2005	上記組合が 5 t / 日の養豚向け飼料の販売を開始
2006	アグリガイアシステムの堆肥を使用したほうれん草を商品原料として供給開始 循環型リサイクルへ
2007	千葉県佐倉市に飼料化を目的にリサイクルセンターを竣工 東京 23 区の約 1,000 店舗を対象に飼料化リサイクルを開始

<セブン-イレブン「エコ物流システム」>

セブン-イレブン・ジャパンでは、1994 年より、独自の廃棄物回収「エコ物流システム」を構築しています。この仕組みは、地域ごとに推奨した廃棄物処理業者が、その地域の店舗から排出される廃棄物を一括して収集し、適正処理とリサイクルを効率的に行うものです。このたびの飼料化食品リサイクルも、「エコ物流システム」の一環として取り組んでいます。

▶東東京ゾーンにおけるエコ物流の事例



<セブン-イレブン堆肥化食品リサイクルの概要>



<アグリガイアシステム 概要>

社 名 : 株式会社アグリガイアシステム

本 社 : 千葉県八街市

循環型堆肥化センター: 千葉県八街市

循環型飼料化センター: 千葉県佐倉市

設 立 : 1997年6月

代表取締役 : 谷古宇 浩之 様

営業許可: 【堆肥化】

産業廃棄物処分業許可(千葉県)

一般廃棄物処分業許可(八街市)

登録再生利用事業者(農水省・環境省)

【飼料化】

産業廃棄物処分業許可(千葉県)

一般廃棄物処分業許可(佐倉市)

登録再生利用事業者(農水省・環境省・経済産業省) 現在取得中



アグリガイアシステム
 循環型飼料化センター外観

以 上